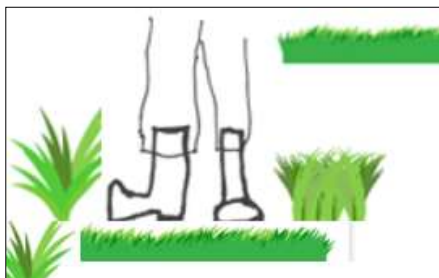
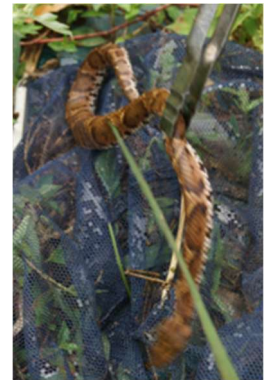


●里山農園で二匹目のマムシを捕獲

8 月 9 日の定例作業日の朝、里山農園の 2 号地の水受けの桶に再びマムシが落ち込んでいるのが発見されました。これは今年二度目の出来事です。これまで一号地と二号地の東角の山裾のところをよく見つけてきましたので、草刈りを徹底的に行ってきました。近頃この部分での栽培することが少なくな



って人が近づく回数が少なくなっているようです。ここは湿気があって日陰でもあり、里山農園ではマムシの生育地には適地を考えられています。ところが今回発見されたところまでは距離がありますので移動するにはかなりの草むらにマムシには必要に成るのではないのでしょうか。ここにはカエルなどの小動物がいるので狙い処になっているのではないかと考えられます。大ものだと桶に落ち込んでも立ち上がれるのですが、マムシの大きさでは逃れられずにいた様子です。これらから推察すると行動力はかなりの距離になっているので里山農園ではこれまで以上に足元に気を付けなければならないのではないのでしょうか。



← 長靴で足を防御

●9月 6 日 第 29 回里山講演会の講師は小林慧人氏に決まりました。

小林さんは同志社大学に在学中仲間の皆さんとともに里山の会を度々訪れ天井川や木津川での取り組みに積極的に参加されました。そして木津川レンジャー学生部として魚採りではその腕前を発揮して指導にあたってくださいました。卒業後は京都大学の院生となって京都だけではなく日本中を駆け回りアジアなど海外にも視野を広げて同志社時代に関心を持っていた竹への研究課題に取り組む活動を展開されています。こうした経過から幼少の頃の数多くの経験が大切と強調されています。今回はこうしたところを深めていただければとご依頼いたしました。また近辺では高齢化があらゆる部門で問題となっていますが、特に山林での竹の繁茂が問題になっていますのでいいヒントを学ぶ事が出来ればと思っています。時間が許せば質疑応答をしっかりとれるように致しますので多くの皆さんのご参加をお願いいたします

第 29 回 里山講演会

今回は里山の会で共に活動を進めてきた「小林慧人さん」を迎えて、タイトル「子どもと生きものの」、サブタイトル「竹への関心が育んだ自然とのつながり」としてお話を聞いていただきます。小林慧人さんは大阪池田市出身で建築家のお父さんの影響を受け、同志社大学に進み木津川河川レンジャーとして、仲間の学生たちと天井川など地域の地理や歴史を訪ねて学び、幼児たちと木津川での魚とりを取り組み、そこで池田小学校の水野先生たちから学び取った川の面白さを活かした指導で腕を発揮されました。大学を卒業して京都大学農学部研究科に進み、竹類の研究に興味を深め日本国内はもちろんアジア諸国や世界各国の視察を通して識見を深めました。そして現在森林研究所の職員として日夜広く活躍をされています。今回はこうした成長の道に進んだ幼少の頃の経験の大切さなどを子育て中の保護者の皆さんとともに語り合う事が出来ればと多忙な中、時間を取っていただきました。ぜひ多くの保護者の方々のご参加をお願いいたします。

9 月 6 日(土)13:00~15:30

京田辺市中央公民館

講師 小林慧人 森林研究所職員〈30 歳〉

演題 「子どもと生きもの」

竹への関心が育んだ自然とのつながり

幼少期の自然体験が、どのように人生の方向性を形づくるのか。
子育て世代の皆さんとともに、自然との関わりを大切にする時間です。

中学生の活動発表 中沢洋斗(三年生) 吉村開(三年生) チョウウや生き物について

参加申し込み	メール fddb257@yahoo.co.jp 氏名 住所 電話
受付人数	50 人 先着順に受け付け
参加費	無料 先着順 参加可否はメールで通知します
主催	特定非営利活動法人やましろ里山の会
	事務所 京田辺市田辺深田 15 〒610-0331
後援	京田辺市教育委員会 京都府山城教育局
	この事業は京都府地域交響プロジェクト交付金事業です

●第二回理事会の開催 8月29日 里山の会事務所 13:00~16:30

2025年度は新理事長に長らく特別代表として発展に尽力を頂いてきた岩佐英夫さんにご多忙の中、ご無理を申してご就任していただきましての理事会ですので理事諸氏のご出席をぜひよろしくお願いいたします。議題としては2025年度の前半の事業の振り返り、年度後半事業の企画と結成30周年事業についての議論を予定しております。よろしくお願いします

●国交省淀川河川事務所から「川の指導者講習」の案内がくる 河川協力団体に

今年の夏は異常な高温が続きました。そして川や海などでの水難事故が多発し連日報道されています。里山の会は国交省の河川協力団体の一員として心を痛めています。魚とりや川辺でのイベントを数多く実施している団体として水難事故防止のための基本的な指導者講習会開催の連絡通知が届きましたのでご紹介をさせていただきました。10月1日（水）9時30分から16時30分で午前中は座学で午後は現地での実習

が八幡市のさくらであい館で行われます。ぜひ多くの皆様のご参加をお願いいたします。特に午後の実習ではウェットスーツ着用（主催者無料貸し出しされるのでサイズ登録）が必要ですと言わせてください。

または要綱をメールで送りますので連絡をください。 → fddb257@yahoo.co.jp

●集塵機が入荷しました

竹サインペンの制作では竹の四面の手触りをよくするために研磨作業を行う必要がありますが、その折に粉末粉が飛散するのでそれを防止するための集塵機を探し求めてきました。このたび、大阪の淀川電機製作所で手ごろな製品（値段や性能・修理）が見つかりましたので購入をいたしました。これまでは家庭用の掃除機で代用してきましたがそれに比べると粉末の収集には格段の能力が発揮されましたが、完全に飛散を防止できるには少し吸引力が弱いように見られました。能力アップを求めれば騒音もおおきくなりますのでこの辺りだと思います。

第2回理事会

2025年度もあわただしくもう半年も過ぎ去りました。いよいよ新しい理事長のもとで後半の取組が始まってまいります。

課題であった後継者育成には少し良い兆しが見えていますが、日常業務は超高齢者が活動の中心を担うことが続き、高温の夏日の連続で河原などでの夏休みに実施してきた魚とり体験などを避けなければならないことになりました。それに代わって夏の事業では昆虫などの山や林での調査観察がにぎやかに取り組まれます。前年度後半に参加した「タナクロ」や、京都水族館との新しい協力関係が年度後半に引き継がれてさらに充実される見通しです。また京都府南山城広域振興局主催の「やましろの御馳走フェス」への初参加が予定されています。これまで以上に「生き物フェス、城陽市緑花フェス、近畿「子どもの水辺」in 京都など」広く協力し合う場面が計画されるようになりました。特に滋賀県立琵琶湖博物館から贈呈を受けた冊子に竹蛇簞や蛇簞が特集され、木津川に設置した現物の写真が掲載されて全国に紹介されるようになりました。組織内部の多くの課題を抱えつつ広く多くの活動団体との連携などが拡大される新しい役割を果たしていく段階を迎えています。こうした状況のもとでの2025年度第2回理事会は前半を振り返り、さらに新年度を展望した改善事業への提案を見つけ合い、30周年前年の有意義な理事会への準備をお願いいたします

8月29日(金) 午後1時~4時30分

会場 里山の会事務所

- 議題
- 1 事業の振り返り
農園部会、植物観察、魚部会、ミツバチとメダカ観察
竹サインペン、昆虫部会、木津川希少種保全部会
イタセンバラの復活を目指す、ヤマトサンショウウオ調査観察
その他
 - 2 後半時のイベントについて 各イベントの開催目的の再確認
 - 3 その他